

FIGHT FOR WHAT COUNTS.

本当に大切なものを守る闘い

投資計画概要

第7次増資 2023-2025年

表紙：サフィ・ワンゴと季節に合わせて抗マラリア薬を予防内服する季節性マラリアの化学的予防（SMC）を受けた2才の娘ウディマ・アウレウ。ブルキナファソのSMCプログラムは、マラリアとの闘いにおける成果を守るため、新型コロナウイルス禍でも様々な安全対策を施し、展開されました。

The Global Fund/Olympia de Maismont

本当に 大切なものを 守る闘い

Fight for what counts

2002年、人類を脅かす恐ろしいパンデミック、HIV/エイズ、結核、マラリアと闘うために、連帯とリーダーシップによって世界が一致団結してグローバルファンドが設立されました。

この比類なきパートナーシップは、これまで20年に渡って530億米ドル以上を投資し、**4400万人の命を救い**、支援する国々でエイズ、結核、マラリアを合わせた死亡率を半分以上減らしました。

この莫大な数字の裏には様々な人間模様があります。救われた4400万人の中には、子供を想う親や、伸びゆく経済の担い手である事業主や労働者、そして地域に貢献する隣人や友人がいます。マラリアから生き延び、HIVから守られて、大人に成長した子どもたちもいます。地域での生活がよりよく、より健康で、永續するよう、日々努力している地域リーダーもいます。一つひとつの命を救い、一つひとつの感染を予防したことで、多大な効果が生まれてきたのです。

そして2022年、我々は再度、こうした世界的連帯とリーダーシップを必要としています。新型コロナウイルス感染症により世界中で多くの命と健康が奪われ、経済的・社会的混乱が引き起こされています。エイズ、結核、マラリアとの闘いでこれまでに獲得した成果もいまや後退し、最も貧しく脆弱なコミュニティに深刻な影響を与えています。不公平が深まり、貧困が蔓延し、社会的・政治的緊張が高まるなかで、国連の持続可能な開発目標のアジェンダも、いまや達成が危うくなっています。

今こそ、世界が恐ろしい感染症から全ての人を守るとの決意を新たにする時です。誰であろうと、どこに住んでいようと、世界中の人々を、いまだ打ち勝っていないエイズ、結核、マラリアという既存のパンデミックと、現在猛威を振っている新型コロナのパンデミック、そして必ず発生するであろう将来のパンデミックから、守っていくという決意です。

世界をこれらのパンデミックから守ることは夢物語ではありません。感染症の脅威がどれほど強大であろうとも、科学と資金、そしてリーダーシップがあれば闘うことも克服することもできることは、すでに示されてきました。ただしそれは容易ではありません。すべての人が安全でない限り、誰もがリスクに曝されるのが感染症であり、パンデミックから全ての人々を守るには真にグローバルな努力が必要です。パンデミックの予防や検出、対応にはより包摂的かつ効果的なシステムと能力が必要であり、保健システムの核となる要素へさらに投資するとともに、保健サービスへのアクセスを阻む障壁に対して取り組まなくてはなりません。パンデミックで最も被害を受けている人々、とりわけ社会的弱者から成るコミュニティを中心に据えて、そのニーズを代弁し、文字通り誰一人として取り残さない対策を講じる必要があります。

気候変動や環境破壊も、状況の緊急性に拍車をかけています。気候変動は既存疾病の疫学的性質に作用し、新たな疾病の発現を促します。降雨や気温、湿度の変化はすでに、マラリア感染を新たな地域へと移行させつつあります。気候変動は、たとえば脆弱な人々の強制避難や強制移動、あるいは経済不安の高まりなどを通じて、結核やHIVの感染にも変化をもたらすでしょう。さらに気候変動やその他の環境圧力が相まって、動物も罹患

する疾病の人間への伝播、すなわち人獣共通感染症の蔓延様式も変化させるでしょう。新たな感染症の脅威の4分の3は動物由来であり、それらの伝播が増加すると、新たなパンデミックの可能性が高まります。

グローバルファンドの第7次増資は、世界がこれらの難題に立ち向かい、大胆な行動を起こす機会です。我々はエイズ、結核、マラリアとの闘いを加速させ、新型コロナによる後退から回復して、2030年までにこれら三疾患の流行を終息に向けた軌道に戻すことができます。またパンデミックへの備えを一段階進ませ、健康に対する新たな脅威の予防、検出、対応能力に投資し、保健システム全体の強靱性を高めることもできます。そしてこれら2つの相互補完する目的の達成に臨むために総合的アプローチをとることにより、1米ドルあたりの投資効果を最大限に引き出すことが可能です。●



ニジェール・マラディ地域で、殺虫剤浸潤蚊帳の中で休む子どもたち。殺虫剤耐性に対抗するために設計された蚊帳を複数の経路で各家庭に配布することが、最新のイノベーションにより子供たちを含む各家族の安全を守る重要な鍵となります。

The Global Fund/Sarah Hoibak

新型コロナの エイズ、結核、マラリア への影響

新型コロナ発生以前でさえ、エイズ、結核、マラリア対策の進展は、流行終息に向けた軌道から外れていました。3年前の第6次増資の際、グローバルファンドが世界に「感染症との闘いの強化」を呼びかけたのはそのためです。

ドナーは力強い賛同で応えてくれました。140億米ドルという史上最高額が調達され、エイズ、結核、マラリア対策への資金を大幅に増強したうえ、2021–2023年の事業実施期間中に保健システムやコミュニティの保健ネットワークにさらに投資できることになりました。

しかし2020年初めにこうした投資を開始しようとした矢先に、新型コロナに見舞われました。感染の波ごとに資源の流用やサービスの中断、保健システムやコミュニティ・システムのひっ迫が起り、エイズ、結核、マラリア対策への打撃が深まりました。グローバルファンドのパートナーシップは「新型コロナ対応メカニズム(C19RM)」を柱として総力を挙げて対応していますが、後退を余儀なくされているのが実状です。

2020年はグローバルファンド史上初めて、支援する国々において、三つの感染症それぞれで対策の主な成果が下降に転じました。

HIV検査は22%、予防サービスは11%減少しました。HIV治療サービスには回復力や適応力がありましたが、抗レトロウイルス療法(HIV陽性の人が、他の人を感染させることなく健康に暮らすための治療)を開始する人は減少しました。結核の死亡者数は、診断されていない、または治療を受けていない患者の急増に後押しされ、増加しました。薬剤耐性結核の治療を受けている患者数は19%減少し、超多剤耐性結核の治療を受けた患者数は37%減少しました。結核治療を受けた人の数は、100万人以上も減少しました。2020年はマラリアによ

る死亡者数や感染者数も、おもに新型コロナによる混乱によって、大幅に増加しています。マラリアの検査数は4%減少し、推定でほぼ1分にひとりの子どもが死亡しています。三疾患との闘いを強化するどころか、これまでに獲得した成果を守るための奮闘に転じるようになったのです。

この2年間は新旧のパンデミックがいかに相關するかを、まざまざと見せつけられました。

新型コロナはエイズ、結核、マラリアの影響を強く受ける人々にとっては壊滅的であり、パンデミックがいかに不公平を助長し、悪化させていくかを、またしても目にするようになりました。コロナ禍により世界の多くの地域で、保健サービスへのアクセスを阻む人権関連の障壁がより高くなり、ジェンダーの不平等が深刻化し、ジェンダーに基づく暴力が増加しています。しかし各国がエイズ、結核、マラリアに対する既存の投資と、新型コロナに対する新たな対策との間のシナジー¹を、より柔軟でかつ革新的に活用するにつれ、並外れた強靭さやイノベーションが見られるようになっています。多くの国々では、これまでのパンデミック対策を通じて構築された検査機関やコミュニティ・ヘルスワーカーのネットワーク、サプライチェーン、疾病サーベイランスシステムが、新型コロナ対応の基盤となっています。●

パンデミックと闘い
より公平で健康な
世界を構築するための
戦略

¹ [https://www.thelancet.com/journals/langlo/article/PIIS2214-109X\(20\)30420-4/fulltext](https://www.thelancet.com/journals/langlo/article/PIIS2214-109X(20)30420-4/fulltext)

保健システムへの投資の必要性

我々は三疾患との20年間に渡る闘いから、検査機関のネットワークや訓練を受けた医療従事者、サプライチェーンといった保健システムの重要な要素への投資が、マラリアにおける殺虫剤浸潤蚊帳の配布やHIVにおける抗レトロウイルス薬の提供など特定の疾病対策にとって不可欠であることを学びました。公的保健システムやコミュニティの保健ネットワークの強化への支援は、すでにグローバルファンドの投資全体の3分の1近くを占めています。グローバルファンドは強靱で持続可能な保健システムの構築に年間10億米ドル超を投資しており、その目的に対する無償資金の供与額は国際機関としては世界最大です。我々はこれらの投資を通じて、各国がエイズ、結核、マラリアのみならず新型コロナとも闘い、将来のパンデミックをも検出して対応する能力を築くよう支援しています。コミュニティ主導による対応への直接投資などを通じ、命を救う保健サービスへのアクセスを維持、強化して、

コミュニティや市民社会、民間セクター、政府間の協働と信頼を促してきました。

保健システムについて語るとき、疾病サーベイランスシステムや保健施設、分子診断機器、遺伝子配列解析機器などのテクノロジーやインフラに焦点を当てるのは簡単であり、確かにそれらは重要です。しかし、いかなる保健システムであっても、その中心にあるのは人です。

医師、看護師、検査技師、コミュニティ・ヘルスワーカーなど、訓練され、装備を有し、適切な報酬と保護のある医療従事者は、効果的で強靱な保健システムに必須の要素です。保健システムとコミュニティ・システム、特に将来のパンデミックへの備えに対する投資とは、人的資源に対して賢明かつ持続可能な投資を行うことにほかなりません。

新型コロナによって、コミュニティ・ヘルスワーカーを含めたコミュニティにおけるネットワークやシステムが、地域の健康を守る担い手としていかに重要かが浮き彫りとなりました。エイズ、結核、マラリアとの闘いの中で学んだように、最もリスクの高いコミュニティを力づけることによってのみ、貧困や偏見、差別、犯罪化などにより社会的弱者となっている、最も脆弱な人々に確実に命を救う保健サービスを届けることができます。さらに人々とコミュニティを中心に据えることで、いかなるパンデミック対策においても必要不可欠な(しかし多くの場合は欠けている)基盤である信頼の構築にもつながります。

も効果的かつ特化した医療手段や対策を、早急かつ公平に配備して実施することが必要です。さらに、感染症の脅威がいつ、どこで発生しようともそれを予防し、検出して効果的に対応できる、より強靱で持続可能、そして包摂的な保健システムとコミュニティ・システムが必須です。我々にはこれらの両方が必要で、どちらかが欠けても、期待する効果を挙げることはできません。●

**将来のパンデミックへの
備えの基盤となる
強力で包括的な
保健システム**

エイズ、結核、マラリアを打倒し、新型コロナを克服して将来の健康の脅威に向けて防御を固めるには、既存の感染症に対して最

バングラデシュ国際下痢性疾病研究センター (icddr,b) の結核診断・治療センターにある自動遺伝子解析装置 (GeneXpert) は、結核と新型コロナウイルスの両方の診断に使用できます。

The Global Fund/Yousuf Tushar



グローバルファンドの新戦略

これらのテーマと優先課題はグローバルファンドの「パンデミックと闘い、より公平で健康な世界を構築」と謳った果敢な新戦略に盛り込まれています。政府、コミュニティ、市民社会、開発パートナー、民間セクター、技術パートナーなどによるグローバルファンドのパートナーシップ全体が、集中的かつ包摂的で厳格なプロセスを通じて協働し、エイズ、結核、マラリアの流行終息という共通の決意を表明した新戦略を策定しました。国連の持続可能な開発目標3(SDG3)の「すべての人に健康と福祉を」における、2030年までに公衆衛生の脅威であるエイズ、結核、マラリアの流行を終息させるという目標を達成するには、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の実現を急がねばなりません。UHCを達成するためには、強靱で持続可能な保健システムへの投資を増大し、影響を受けているコミュニティの参画とリーダーシップを強化し、保健に関する不公平や人権関連の障壁、ジェンダー不平等に対する取り組みにさらに注力する必要があります。「ユニバーサル」は自動的にもたらされるものではなく、人間中心の包摂的システムの構築と、保健サービスへのアクセスに対する障壁の排除を意図した、継続的な活動によって得られるものです。

この新戦略を実現するには大幅な増資が必要です。新型コロナによるエイズ、結核、マラリアとの闘いの後退の大きさからすると、支援する国々で果敢な国内資金の動員が行われたとしても、現行の資金調達レベルでは軌道に戻ることはできません。選択肢は明白で、これら3つのパンデミック向けの増資を行うか、2030年までに流行を終息させるというSDG3の目標を諦めるかです。多くの人命がかかっているため、人道的観点からは、増資は説得力があります。また経済的観点からすると「三疾患対策を長びかせると、結果的に現時点の投資よりはるかに高くつく」という考え方も同等に説得力があります。エイズ、結核、マラリアのように強力な病原体との闘いには引き分けはなく、勝つか負けるかです。そして新型コロナの打撃を受けている今、我々は敗北の危機に瀕しています。

将来のパンデミックへの備えに対し投資を増大するのもまた説得力があります。エコノミスト誌の数理モデル²によると、新型コロナによる死亡者数は2022年1月20日現在、公的に報告されている560万人をはるかに上回る1900万人で、累積経済損失は10兆米ドルを超えると推定しています³。気候変動やその他の世界的な動向によって、感染症の脅威の頻度が増加する可能性が高いことが示唆されています。パンデミックを引き起こす次の病原体や新たな変異株の発現は、可能性ではなく時間の問題です。

グローバルファンドは強靱で持続可能な保健システムへの投資を継続しており、結果としてパンデミックへの備えにすでに大きく貢献していますが、パンデミックの可能性のある感染症の発生・大流行の予防と備えに関して低・中所得国の能力を一段引き上げるには、資金

調達額を大幅に引き上げ、保健システムにおける重要な要素を拡大、強化する必要があります。

グローバルファンドを通じたエイズ、結核、マラリア対策と保健システムの強化への投資増額とパンデミックへの備えに対する追加投資を組み合わせることによって、既存の感染症との闘いと新興感染症への備えの間にある大きなシナジーを活用することができ、1米ドルあたりの効果を最大限に引き出せます。ジョージタウン大学の研究⁴によると、グローバルファンドの三疾患対策への投資の3分の1は、たとえ明らかな意図がなかったにしても、パンデミックへの備えに貢献していたと推算されました。規模、包摂的な運営モデル、三疾患への注力、さらに成果第一主義の取り組みに鑑みると、グローバルファンドのパートナーシップは、エイズ、結核、マラリアとの闘いに直ちに役立ち、かつ同時に将来の病原体に対する防御を増強するプログラムを各国が策定、実施することを支援することにおいて、他に類を見ない役割を担っています。●

2 <https://www.economist.com/graphic-detail/coronavirus-excess-deaths-estimates>

3 <https://www.economist.com/finance-and-economics/2021/01/09/what-is-the-economic-cost-of-covid-19>

4 <https://www.thelancet.com/action/showPdf?pii=S2214-109X%2820%2930420-4>

エイズ、結核、マラリア流行の将来予測 数値モデルによる投資計画の結果

図1
三つの感染症を合わせた罹患率

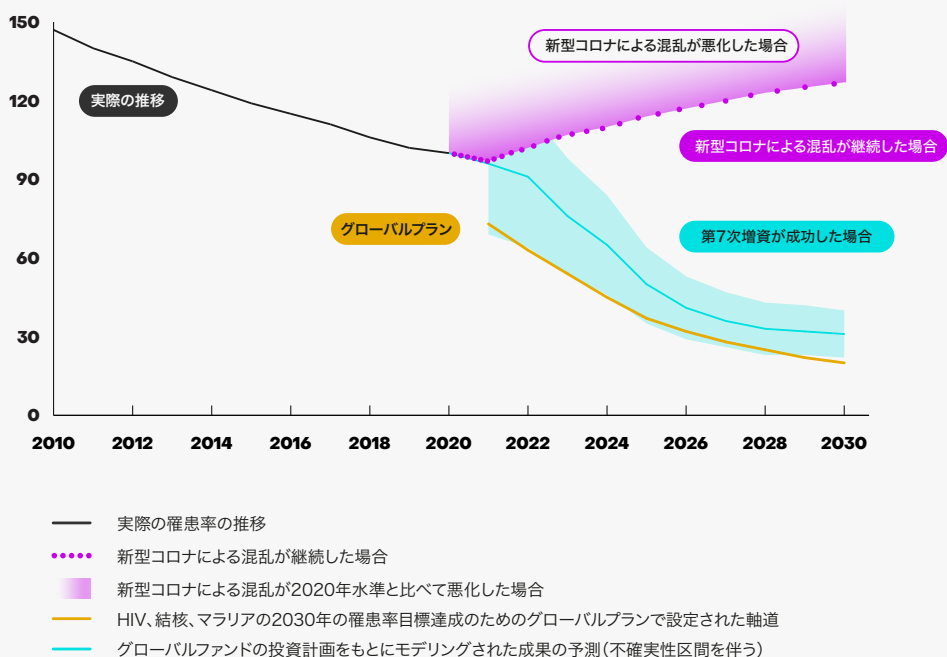
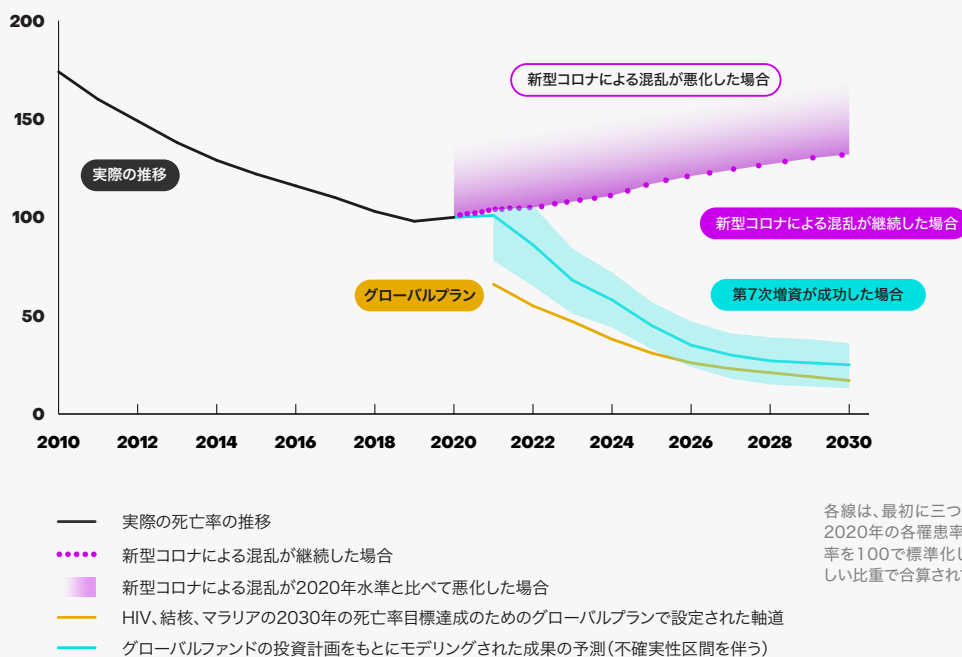


図2
三つの感染症を合わせた死亡率



20年間の成果に基づいて

2022年は前例のない健康危機に直面しながら始まりました。しかし我々はこれまでの経験から、世界が団結して必要な資金や人材を動員すれば、恐ろしい感染症でも撃退できることを知っています。



キエフで夜勤中のソーシャルワーカーのナタリア・ショロフ(左)は、セックスワーカーにエイズ予防情報や検査、コンドームを提供しています。ウクライナは東欧地域で第2のエイズ流行地です。グローバルファンドはパートナーと協働して、エイズ予防・治療への公平なアクセスを確保し、質の高いヘルスケアへの障壁に対して取り組んでいます。

The Global Fund/Evgeny Maloletka

20年前、エイズ、結核、マラリアは克服不可能と思われていました。当時、これらの感染症の猛威は甚大で、貧しい国々や社会的弱者のコミュニティを中心に数百万人もの命が失われ、家族や地域に悲劇的なダメージを与えていました。

グローバルファンドは、予防も治療も可能な病によって毎年数百万人が犠牲となつてはならない、と世界が決意して創られたものであり、そのパートナーシップは過去20年の間に、エイズ、結核、マラリアを合わせた死亡率を半分以上減らしました。

この成功にはグローバルファンド特有のパートナーシップモデルが不可欠でした。我々のガバナンス・モデルの幅広さは、他の国際保健機関や開発機関とは一線を画すもので、パンデミックとの闘いに参画するステークホルダーすべてを包括し、力を持たない社会的弱者も意思決定に参加できます。国レベル、そして国際レベルでも、政府、市民社会、民間セクター、三疾患の影響を受けているコミュニティ、技術パートナー、開発パートナーが協議の場に集うのです。この独特なガバナンスによって支援する国の主体性と信頼性が築かれ、お互いに多様な意見に耳を傾け、尊重するのです。そして何より重要なことは、それが効果的な実施と成果につながっているということです。

エイズ、結核、マラリアを克服するには、各国がこれら三疾患の疫学的動向を左右する不公平や人権関連の障壁、ジェンダーの不平等に対して取り組む必要があります。ゲイの男性や男性とセックスするゲイ以外の男性、セックスワーカー、薬物使用者、トランスジェンダー、受刑者といった人々を含むキーポピュレーション(訳注:エイズ対策を進めるうえで鍵となる集団)のHIV感染率は、一般市民の25倍から35倍にも達します。サブサハラ・アフリカ地域では、15歳から19歳の新規HIV感染者7人のうち6人を女子が占める国もあります。これらを踏まえると、もはや答えは資金のみではなく、政策、法規制、行動、考え方に大きな変化をもたらすための政治的決意が重要となります。国際社会で大きな信用を得ているグローバルファンドは、そうした不可欠な変化をもたらす触媒としての役割を果たしています。

グローバルファンドはまた、支援する国に共同資金調達を課し、保健予算増額のための幅広いアドボカシー活動や技術支援をすることで、支援する国の国内資金の動員においても強力な触媒の働きをしています。前回の事業実施期間では、支援する国々が誓約した共同資金の約90%が拠出されました。今期は新型コロナウイルスパンデミックが引き金となり、国家財政のひっ迫や競合する需要などがあるものの、誓約した共同資金が確保できるよう、各国やパートナーと密接に協働しています。

グローバルファンドの柔軟性は、新たなパンデミックに対する迅速かつ効果的な対応が物語っています。2020年3月から速やかに行動を開始し、支援する国々が既存の供

与資金の中の節約資金を新型コロナ対策にも活用できるようにして、診断検査や治療、医療器具の調達を支援し、最前線で働く医療従事者を個人用防護具(PPE)で保護し、エイズ、結核、マラリア対策を救命優先で調整し、サプライチェーンや検査機関ネットワークなどの保健システムの重要な要素を緊急強化しました。さらに2020年4月には「新型コロナ対応メカニズ(C19RM)」

を立ち上げました。この2つのイニシアチブと多くのドナーの支援を通じて、2022年1月現在で41億米ドルを超える追加資金を

108カ国・20地域のプログラムに供与しています。C19RMはグローバルな新型コロナ対応の中でも極めて透明性、包摂性、迅速性の高いもので、グローバルファンドはこれによって、新型コロナ対策の中で、ワクチン以外のすべて、すなわち診断検査、PPE、医療用酸素などの治療、さらに保健システムの重要な要素の緊急強化などを支援し、低・中所得国に対する最大の無償資金を供与する国際機関となるに至りました。

グローバルファンドの活動は費用対効果も高く、厳格なコスト管理と規模の経済によって、活動範囲を拡大、強化しながらも、運営費を低く抑え続けています。たとえば保健への資金調達、コミュニティ、人権やジェンダーに関する案件、保健サービスへのアクセスを妨げる人権やジェンダー関連の障壁に対する取り組みなどに触媒的に投入している資金は大幅に増加していますが、ドナーからの拠出金に対する運営費の割合は着実に下がり続け、現在は5.1%と、他の多くの国際機関と比べて大きく下回っています。この割合はC19RMに限ると3%未満で、新型コロナの対応にグローバルファンドの中核のインフラとプロセスが活用されていることが反映されています。

グローバルファンドが持つ特有のパートナーシップは、過去20年間のエイズ、結核、マラリアとの闘いにおける目覚ましい進展に不可欠のものです。この実証されたモデルを、三疾患対策を加速させるだけでなく、新型コロナを打倒し、将来の病原体に対応する世界の準備を進めるために使えると確信を持てるのも、その特長のゆえです。●

**パートナーシップで
救われた命は
4400万**

グローバルファンドは 最低180億米ドルが 必要

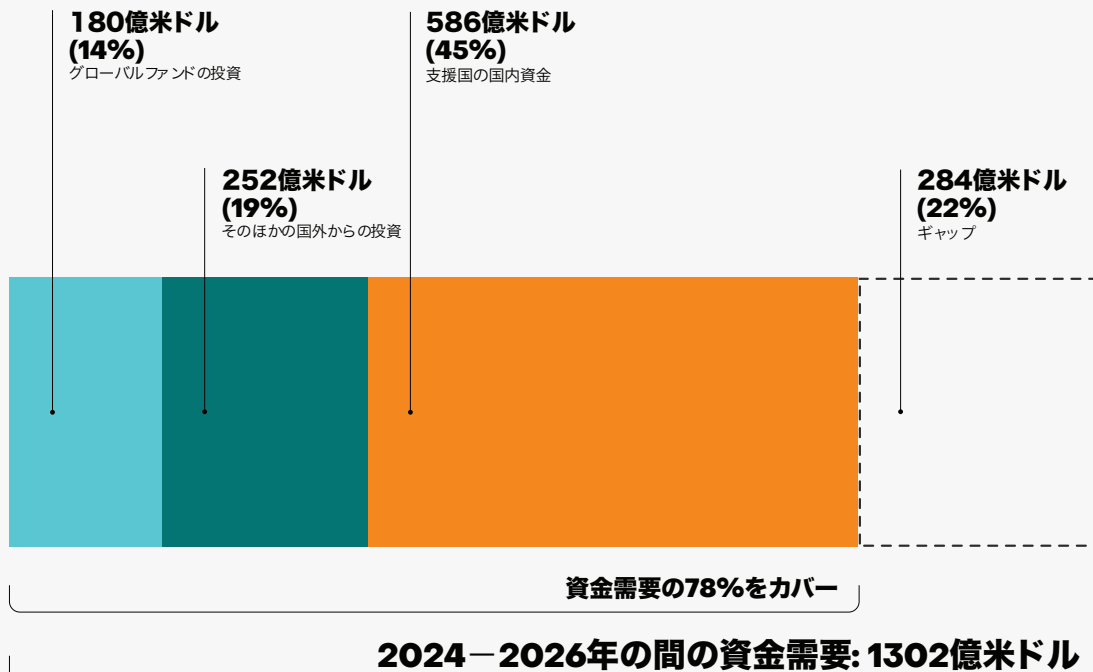
グローバルファンドの第7次増資では、エイズ、結核、マラリア対策とより強力な保健システムの構築のために最低180億米ドルの調達を目指します。180億米ドルの3分の1、すなわち60億米ドルは、三疾患対策と将来のパンデミックへの備えの強化を支える保健システムへの投資と推定しています。新型コロナ禍でも見られたことですが、三疾患対策として設けられた検査機関、サプライチェーン、データシステム、診断機器などが、新たなパンデミックの対策に用いられました。三疾患サービスの提供に不可欠なコミュニティ・ヘルスワーカーは、最前線で新たな感染症の発生の予防、検出、対応も行うことができます。

エイズ、結核、マラリア対策の資金需要の予想額におけるグローバルファンドのシェア
まず第7次増資の目標額を決定する出発点は、世界保健機関(WHO)、国連合同エイズ計画(UNAIDS)、ストップ結核パートナーシップ、マラリアを終わらせるためのロールバックマラリア(RBM)パートナーシップなどの技術パートナーと共に策定した三疾患対策の資金需要の予想額です。グローバルファンドが支援する国々における2024年から2026年のエイズ、結核、マラリア対策の資金需要は1302億米ドルと予想されており、今期の3年間(2021–2023年)の資金需要と予想された1010億米ドルより29%の増加となります。この急増は新型コロナ禍中に三疾患対策すべての成果が停滞、後退したことを反映したもので、SDG3の目標であるエイズ、結核、マラリアの流行という公衆衛生の脅威を2030年までに終息させるためには、死亡者数と新規感染者数を低減するための進展を加速化させねばならず、それには必然的に多額の資金を要します。

3年前の第6次増資における投資計画は、2021年から2023年の間における三疾患対策の資金需要として予想された1010億米ドルの約14%をカバーするために140億米ドルの資金調達を目標としました。次の事業実施期間(2024–2026年)の資金需要の予想額である1302億米ドルでも同様の割合をカバーするには、グローバルファンドは少なくとも180億米ドルをエイズ、結核、マラリア対策に投資する必要があります。これは、新型コロナによる後退から回復し、2030年までにこれら三疾患の流行を終息させるというSDG3達成に向けた軌道に戻る(図1および図2)ための必要最低額です。

図3

グローバルファンドが支援する国々における エイズ、結核、マラリア対策の資金需要と予想投資額



将来のパンデミックへの備えに貢献

G20ハイレベル独立パネル(HLIP)は、さらに年間234億米ドルを将来のパンデミックへの備えに投じ、低・中所得国におけるサーベイランス・検出ネットワーク、より強靱な保健システムとコミュニティ・システムの構築を支援すべきとしています。これには年間推定80億米ドルの国際支援資金の追加が含まれます。

第7次増資に最低180億米ドルを調達することにより、グローバルファンドは強靱で持続可能な保健システムの構築と将来のパンデミックへの備えの強化に大きく貢献することができます。保健システムとコミュニティ・システムの強化に約60億米ドル、すなわち年間20億米ドルを投じることにより、グローバルファンドは、人間中心の包摂的な保健システムの構築、そして感染症の脅威に対して予防、検出、対応能力の向上に向けた各国の活動を支援するにあたって、より大きな役割を果たせます。一方で、このレベルの投資では、将来のパンデミックへの備えに対する低・中所得国

の資金需要を十分に満たせません。既存パンデミックと闘うための保健システムへの投資と新たな脅威に備えるための投資の間の大きなシナジーに鑑みると、グローバルファンドは各国のパンデミックへの備えの強化を支援することにおいて、他に類を見ない役割を担っています。グローバルファンドは新戦略に則り、将来の感染症の脅威から世界を守る方策についての今まに行われている国際的な議論から得られる新たな資金源や資金メカニズムを通じて、追加資金の確保を目指します。

新型コロナ対応メカニズム(C19RM)の資金調達

第7次増資の目標の180億米ドルは、C19RMを通じたグローバルファンドの今後の新型コロナ対応資金は含まれていません。これは本メカニズムが2022年および2023年の緊急ニーズに対応するために設計されたものであり、第7次増資は2024年1月に始まる3年間に実施されるプログラムの資金を調達するのが目的であるためです。

コミュニティこそが 活動の中心

2024年以降もコロナ対策への資金供与が必要とされる可能性もありますが、現時点でそうしたニーズの額や性質を評価することは不可能です。とはいえグローバルファンドはAccess to COVID-19Tools Accelerator (ACTアクセラレーター)⁵の戦略と予算に則して、引き続きC19RMへの拠出金を受領していきます⁶。C19RMの資金は、すでに検査機関や酸素インフラ、遺伝子解析などといった保健システムの強化に使われており、2024年1月に始まる次の事業実施期間前にパンデミックへの備えに緊急投資が必要となった場合にも、即座に利用できます。

失敗は許されない

第7次増資の目標の180億米ドルは、第6次増資で調達された140億米ドルを40億米ドル上回り、29%の増加です。これは世界がエイズ、結核、マラリアの流行終息に向けた軌道に戻り、将来の疾病の脅威に対し世界をより公平に、また安全にするための必要最低額であり、グローバルプランにより推算された資金需要に則したものです。

エイズ、結核、マラリア対策への投資を強化しなければ、我々は公衆衛生の脅威であるこれら三疾患の流行を終息させるという2030年目標を実質的に放棄することになると受け止めなければなりません。それどころか、我々は今までの闘いと投資して獲得した成果を返上し、人々を死ぬに任せ、コミュニティを置き去りにすることになりかねません。三疾患との闘いを長びかせる経済的コストは、必要とされる追加投資の額をはるかに上回ります。失われる命は数百万にも上ります。

同様に、保健システムへの投資を強化して強靱性とパンデミックへの備えを築いていかなければ、世界がパンデミックに対して長年繰り返してきた「panic and neglect (喉元過ぎれば熱さを忘れる)」の悪循環を繰り返すリスクがあります。新型コロナから学び得たことがひとつあるとすれば、パンデミックへの備えに十分な投資を行わないのは不経済だということです。数百万もの死亡者を出し、数兆米ドルの損失をもたらす脅威から身を守るために、パンデミックへの備えに数十億米ドルを投資するのは合理的といえます。誰一人取り残すことなく、真にグローバルに取り組まなくては、成功はあり得ません。

失地を回復するには、恐ろしい三疾患からすべての人を守るよう行動することが必要です。未だに克服されていないエイズ、結核、マラリアというパンデミックの終息に向けたコミットメントを忠実に守りつつ、必ず現れるであろう次の恐ろしい病原体に対する防衛を強化することです。これにはビジョン、持続的な政治的リーダーシップ、多額の資金が必須です。またこれら三疾患の影響を最も受けているコミュニティを含め、世界中の多様なパートナーとの緊密な協働も欠かせませんし、それは不可能なことではありません。グローバルファンドの過去20年間の成功がその証です。そして第7次増資は、それらすべてを実行に移す時です。

今こそ、本当に大切なものを守るために闘う時です。命のために。健康なコミュニティのために。恐ろしい感染症の恐怖から解放された、より公平な世界のために。

⁵ ACTアクセラレーターに準じた新型コロナ対応メカニズムへの拠出金

⁶ <https://www.who.int/initiatives/act-accelerator>

最低180億米ドルを調達することによりグローバルファンドができること⁷

世界がエイズ、結核、マラリアの流行終息への軌道に戻るための支援：

SDG3とユニバーサル・ヘルス・カバレッジに向けた進捗を加速、パンデミックへの備えを強化：

2000万の命を救う

2024年から2026年の間に2000万の命を救い、2026年までに三疾患合わせた死亡率を2020年と比べて64%減少させます。

三疾患全体の死者数を減少

三疾患全体の死亡者数を、2005年の400万人、2020年の240万人から、2026年には95万人にまで減少させます。

新たな感染を4億5000万件回避

2026年までに三疾患合わせた罹患率を、2020年と比べて58%減少させます。

最大590億米ドルの国内資金の増加を促進

共同資金調達の誓約や医療財政に関する技術支援を通じて、三疾患の流行終息と保健システムの強化に向けた国内資金増加を促進します。

保健システムの強化とパンデミックへの備えの強化

約60億米ドルを投じて医療従事者の支援や、検査機関、診断機器、サプライチェーン管理、情報・財務システムの強化に充てるほか、薬剤耐性結核を含む薬剤耐性に取り組み、コミュニティ・システムを強化し、より特化した患者中心型のケアモデルへの移行を加速します。

投資対収益率1:31を達成

投資された1米ドルあたり31米ドルに相当する健康の進展と経済的利益が生み出されることにより、SDGアジェンダ全体の達成にさらに貢献します。

保健サービスにおける不公平を低減

ジェンダーや人権関連の障壁に取り組み、市民社会や影響を受けているコミュニティなどのパートナーと協働して、誰一人取り残さない、より包摂的な保健システムを構築します。この投資により、たとえば平均寿命の国際格差（低所得国の平均寿命は高所得国をはるかに下回る）が2026年には9%低減します。

7 グローバルファンド以外からの国際援助資金が同じレベルに保たれ、支援する国々の国内資金が増加し、さらにイノベーションや協働、綿密な事業実施が促進された場合、第7次増資の180億米ドルの資金調達の成功が、上記の成果を導きます。



**The Global Fund to Fight
AIDS, Tuberculosis and Malaria**

Global Health Campus
Chemin du Pommier 40
1218 Grand-Saconnex
Geneva, Switzerland

+41 58 791 1700
theglobalfund.org

**本当に
大切なものを
守る闘い**

**FIGHT FOR
WHAT COUNTS.**

ケニア・シアヤ出身のキャロライン・ワソングは、グローバルファンドが支援するケニア赤十字社プログラムに参加する400人のピア・エデュケーター（仲間教育をする人）の一人です。思春期の女子や若い女性にエイズ予防と治療、ケアを提供し、女性に対する暴力の事例への対処を支援します。

The Global Fund/Brian Otieno

